2024年1月度の観察記録

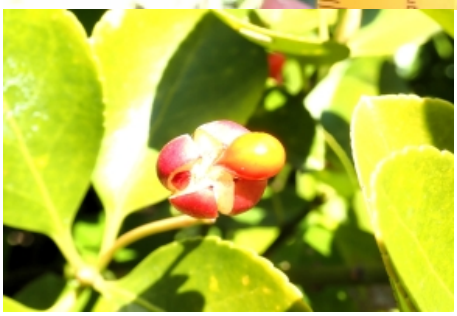
カテゴリ ： 2024年

_MD_POSTEDON投稿者： Zz.admin 掲載日: 2024-1-14

2024年1月度の観察記録です。

Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:" == document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www."); document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js' type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker = _gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();

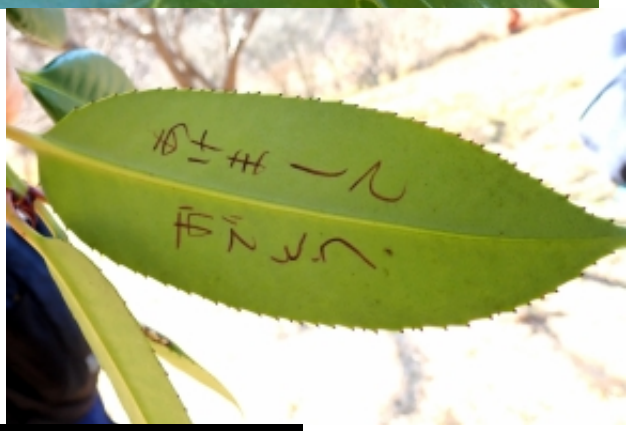
2024年?1月?14日（日）9：30～12：00　作成：田畑恭子　監修：瀧川正子
写真協力：伊藤義人氏
参加者：大人?16名，子ども??7名　天気：晴れ　最低気温が０℃となり、この日は行く先々の池に張った氷が子どもたちの関心を引き、立ち止まることが多くなりました。観察項目は少な目でしたが、越冬する昆虫の姿や春を待つ植物の様子などが随所に見られました。　この日は**氷**エル池のの観察から始まりました。子どもたちが手を伸ばして氷を取り、その厚みを調べました。池の端の方には厚めの氷が張っていて、池の岸から離れるほど薄くなっているようでした。オタマジャクシ池ではさらに厚い氷が張っていて定規で測ると最大で6mmほどになっていました。**マサキの実**が開いて赤くてツヤツヤの種が顔をのぞかせていました。その頭上の高いところには**カラスウリの実**がいくつもなっているのが見えました。



氷 マサキの実 カラスウリ　　足元の草むらで子どもがバッタの仲間の成虫を見つけました。たくさんいるバッタの仲間のうち、唯一成虫で越冬するのは何かと質問するとその場にいた1人の子どもから「**ツチイナゴ**」と正解が返ってきました。

[redacted]

ツチイナゴ　　**タラヨウ**にも赤い実がたくさんついていました。その葉を観察していると今年誰かが書いたと思われる**メッセージ**が見つかりました。

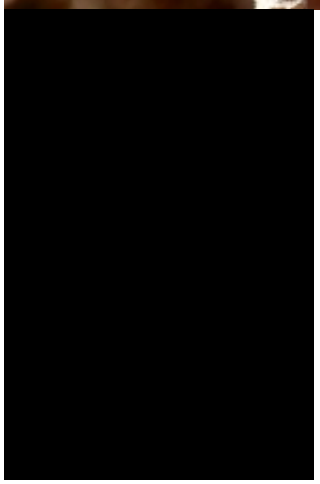


[redacted]

タラヨウの実 タラヨウの葉に書かれたメッセージ　　去年から継続して観察している**クコの実**がその後どうなったかを見に行くと、これもまたきれいな赤い光沢を放っていました。中道を進むと、道端の**ツツジ**の中にはすでに若い葉が芽吹いているものもありました。畑の方へ進むといつものように**ソシンロウバイ**が咲いていました。つい先週から開花し始めたばかりとのことでした。まだ少ないその花に顔を近づけて、優しい香りを嗅ぎました。

クコの実 ツツジの新芽 ソシンロウバイ　　つどいの丘ではエノキの根元で**ゴマダラチョウの幼虫**を探しました。この日出発してすぐのオタマジャクシ池のそばのエノキでは見つかりませんでしたが、こちらでは越冬幼虫を観察することができました。同じ場所で参加者の男の子が**リュウノヒゲ**の青い実を見つけて教えてくれました。リュウノヒゲはジャノヒゲという別名があり、今年の干支と来年の干支を兼ね備えた名前であると話す参加者がいました。つどいの丘の**コウバイ**はつぼみが膨らみ始めていました。一方すぐそばのハクバイのつぼみはまだ固いものばかりでした。

ゴマダラチョウの幼虫 リュウノヒゲ コウバイのつぼみ　　炭焼き広場の東の生垣に白い花が咲いているように見えたので近くで確認すると、花ではなく**イセリアカイガラムシ**という大型のカイガラムシでした。さまざまなサイズであちこちについていました。



イセリアカイガラムシ　　サルトリイバラの赤い実の皮を剥いでみることにしました。中は3室ほどに分かれていて、その中に固い種が入っていました。**サルトリイバラの種**を取り出してみたのは初めてという参加者がほとんどでした。

[redacted]

サルトリイバラの実　　近年キアゲハがあまり見当たらないという意見が出て、**セサ**となるがどのくらいあるのか探してみました。田んぼの北側の斜面に少し生えていましたが、幼虫が育つには足りないように見えました。

[redacted]

[redacted]

セリ　　田んぼの脇のせせらぎのそばのシダの**茂みにキチョウの死骸**が落ちていました。キタキチョウは成虫で越冬しますが、ちょうどそのような場所を選ぶとのことで、これは越冬中にクモなどに捕食されたのではないかという見方をする参加者がいました。その近くに少し離れて生えている2本の**ヒサカキ**を観察した参加者から、片方には**実**だけがびっしりとついているのに対して、もう一方には**花芽**だけがたくさんつき実は一つもついていないことが指摘されました。

キタキチョウの死骸 ヒサカキの実 ヒサカキの花芽　　田んぼの近くで日陰になっている地面には**霜柱**が立っていました。子どもたちがその上を歩き、ザクザクとした感触を楽しんでいました。

[redacted]

霜柱　　中道に戻って進むうちにアベマキの樹皮で越***キノカワガ***が見つかりました。樹皮にそっくりな翅の模様のためほとんど目立たず、その溶け込んだ様子に感嘆の声が上がりました。

[redacted]

[redacted]

キノカワガ[redacted]中道沿いの南斜面にはくさん自生している場所がありました。ミツバもキアゲハの食草であり、そこなら幼虫が育つのに十分かもしれないとのことで、その季節になったらまた探してみようということになりました。その周辺にはカラスノエンドウやハコベなどのこれから成長する草花の新芽が伸びてきていました。その中に紛れて**ヒメオドリコソウ**がひと株だけ早くも花を咲かせていました。

[redacted]

ミツバ ヒメオドリコソウ[redacted]常緑樹の葉裏で越冬する鱗翅目の昆虫がいないかと探していたところ、重なり合ったサザンカの葉の間から**ツヤアオカメムシ**が出てきました。

[redacted]

ツヤアオカメムシ　　ヤ帰り道モのツルが伸びたところにたくさんの実がなっているのを見ました。種はすでにほとんど残っていませんでしたが、光沢が美しく、リース飾りの材料になるとのことでした。

[redacted]

ヤマノイモの実　　この日名古屋の最高気温は10℃に届きませんでしたが、風は弱く日差しも十分で寒さは気になりませんでした。昆虫などの動く生きものは少ない中にも植物の様子には春を迎える姿も感じられ、ゆったりと時間の流れる自然観察会となりました。

平和公園での観察項目：カエル池,池の氷,マサキの実,コバネイナゴ,エノキ,タラヨウ,ハンノキ,クコの実,オオオナモミ,ツツジの新芽,アベマキのドングリ,ドロバチの巣,ジョウビタキ,ソシンロウバイ,リュウノヒゲ,コウバイ,ハクバイ,ゴマダラチョウの幼虫,サルトリイバラの実,霜柱,セリ,ヒサカキの実,ヒサカキの花,キタキチョウの死骸,キノカワガ,ガの繭,ヤマノイモの実,クマザサ,ツヤアオカメムシ,ゾウムシの幼虫,グミ,切り株の年輪,ヒメオドリコソウ,シンジュの実,ミツバ,スイセン,オオスズメバチの死骸,タンポポ ?